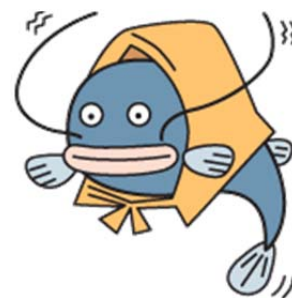


緊急地震速報 なまずきん



マンスリー レポート

2012年 11月号

発行元 株式会社 ハレックス

12月3日、緊急地震速報の訓練が行われます

緊急地震速報を見聞きしてから強い揺れが来るまでの時間はごくわずかであり、その短い間に、あわてずに身を守るなど適切な行動をとるためには日ごろからの訓練が重要です。このことから、12月3日に全国的な訓練が計画されています。

気象庁は国の機関や地方公共団体及び民間の緊急地震速報を提供する事業者のうち、訓

練への参加を計画している機関や団体に対して、訓練用の緊急地震速報を配信します。

なお、弊社では12月3日に訓練を実施したいというご利用者様、或いは任意の日に個別に訓練を実施したいというご利用者様には個別に訓練報を配信させて頂くことにしています。

緊急地震速報訓練に参加予定の機関等

(11月20日までに確認できた機関等が掲載されています)

(1) 地方公共団体：1334団体

- ・住民が参加する緊急地震速報対応行動訓練を実施する団体（62団体）
＜住民が防災行政無線等で訓練の緊急地震速報を見聞きし、速やかに身を守る行動をとる訓練を実施＞
 - ・住民が参加する避難等の防災訓練を実施する団体（7団体）
＜訓練の緊急地震速報を合図に、地震の被害・津波・火災等の発生を想定して住民が避難する等の防災訓練を実施＞
 - ・地方公共団体職員を対象とする緊急地震速報対応行動訓練及び避難等の防災訓練を実施する団体（492団体）
＜職員が訓練の緊急地震速報を見聞きし、速やかに身を守る行動をとる訓練や、地震の被害・津波・火災等の発生を想定して避難する等の防災訓練を実施＞
 - ・Jアラートを活用し、実際に住民への情報伝達手段を起動させる団体（460団体程度）
＜市町村同報系防災行政無線、無線（屋外スピーカー）、有線（屋外スピーカー）、コミュニティ放送、CATV放送、音声告知端末、登録制メール、緊急速報メールのうち、いずれかを起動させる訓練を実施＞
 - ・Jアラートを活用し、実際に庁内放送を起動させる団体（180団体程度）
＜市庁舎等の庁内放送を起動させる訓練を実施＞
- この他に、Jアラートの受信確認や情報伝達手段の起動手順の確認を実施する団体があります。

(2) 中央省庁の組織等：582団体

内閣官房、内閣府、総務省、消防庁、財務省、農林水産省、経済産業省、特許庁、国土交通省、気象庁、海上保安庁、国土地理院、環境省
これらのほか、地方支分部局等 569団体

(3) 民間の緊急地震速報を配信する事業者等：13事業者

(4) 各種団体、民間企業等：約1100か所

(内閣府・消防庁・気象庁報道発表資料より抜粋)

〜〜 なまずきんの働き (2012年10月) 〜

【発信数等概要】

平成24年10月に緊急地震速報(警報)が発表された地震はありませんでした(9月はなし)。

また、緊急地震速報(予報)が発表された地震の回数は109回(9月は70回)でした。発信の総数は532通(9月は363通)でした。緊急地震速報で予測震度4以上と報じた地震の回数は10回(9月は2回)、予測震度3と報じた地震の回数は26回(9月は11回)でした(Table.1、2)。

「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」の余震は、次第に少なくなってきているものの、最大震度4を観測した地震が5回、震度1以上を観測した地震が150回発生するなど、引き続き岩手県沖から茨城県沖の広い範囲で発生しました。10月25日には宮城県沖でM5.6(最大震度5弱)の余震が発生しました。10月中に発生したM5.0以上の地震の回数は7回(9月は2回)、最大震度4以上を観測した地震の回数は6回(9月は1回)でした。なお、余震回数(2011/03/11 14:46~2012/10/31 24:00、本震を除く)は、M7.0以上が6回、M6.0以上が106回、M5.0以上が707回となっています。

Table.1 緊急地震速報で最大震度が4以上と予測された地震及び警報発表回数(2012年10月1日~31日)

	予測震度4以上の発表回数	警報発表回数
東北地方太平洋沖地震の余震	6回	0回
上記以外	4回	0回
	計10回	計0回

Table.2 緊急地震速報で最大震度が3と予測された地震(2012年10月1日~31日)

	予測震度3の発表回数
東北地方太平洋沖地震の余震	13回
上記以外	13回
	計26回

【高知県中部の地震について】

10月27日04時44分頃、高知県中部を震源とする深さ34kmでM4.5の地震が発生し、高知県、徳島県、香川県、愛媛県、広島県で最大震度3を観測しました。この地震に対して、気象庁は緊急地震速報(予報)を発表しています。

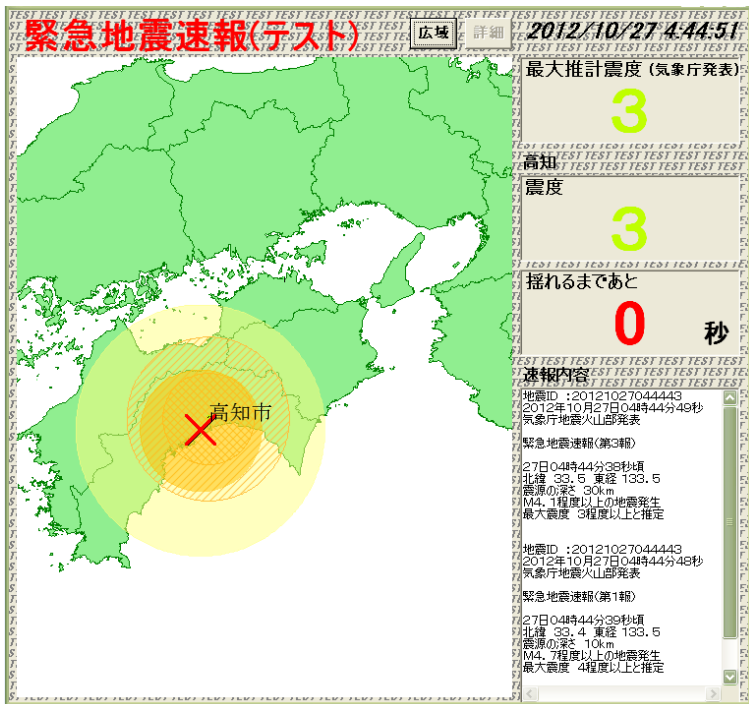


図1 “なまずきん”による再現の様様。
高知市に着目した時の、緊急地震速報第3報受信時の“なまずきん”の再現表示です。
気象庁発表の最大予測震度は3、なまずきんの計算結果である高知市の最大予測震度は3を示しています。地震波の主要動は既に到達していることを示しています。
×印は震央、外側の円(薄い黄色)がP波、内側の円(橙色)がS波(主要動)の拡がり。高知市を中心とした2つの円(橙の斜線)は、P波(外側)、S波(内側)の距離限界円。距離限界円とは、緊急地震速報よりも地震波の方が早く到達すると推定される距離の限界の事です。

Table.3 緊急地震速報(予報)の提供及び処理の状況
 10月27日04時44分頃の高知県中部を震源とする地震に関する緊急地震速報について
 (高度利用者提供データから)

気象庁発表時刻等 (時:分:秒)		震源要素等				最大推定震度 (ここでは高知市)
		北緯 (度)	東経 (度)	震源の深さ (km)	マグニ チュード	
1	04:44:48	33.4	133.5	10	4.7	4程度以上と推定
2	04:44:49	33.6	133.4	30	4.5	3程度以上と推定
3	04:44:49	33.5	133.5	30	4.1	3程度以上と推定
4	04:44:54	33.5	133.5	30	4.1	3程度以上と推定
5	04:44:56	33.5	133.5	30	4.8	4程度以上と推定
6	04:45:13	33.5	133.5	30	4.8	4程度以上と推定
7	04:45:29	33.5	133.5	40	4.8	3程度以上と推定

【高知県中部の地震について】

2012年10月27日4時44分に高知県中部の深さ34kmでM4.5の地震(最大震度3)が発生しました。1923年1月以降の活動(図2、図3)を見ると、今回の地震の震央周辺(領域c)では、1946年12月21日のM5.1の地震が発生するなど地震活動が活発化しました。これは、南海地震(1946年12月21日M8.0)の発生直後にあたります。この地震を最後にM5.0以上の地震は発生していません。また、今回の地震の震央付近で2010年7月23日にM4.4の地震(最大震度3)が発生しています。(1997年10月以降)M4.0以上の地震は今回が2回目です。

[平成24年10月地震・火山月報(防災編)より抜粋]

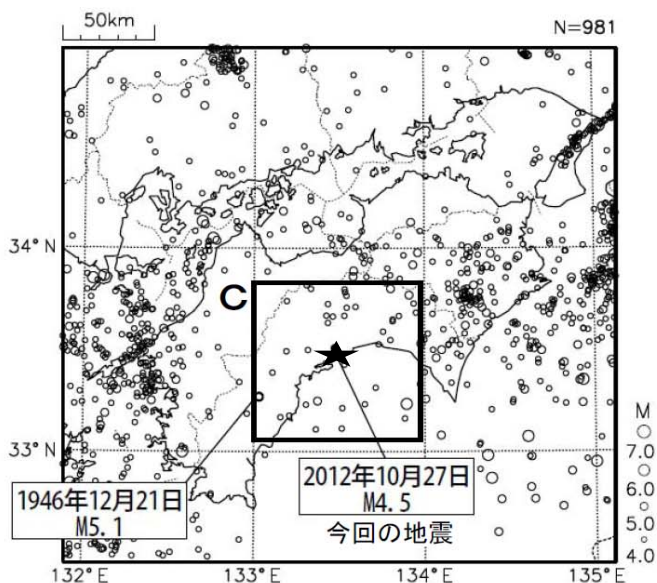


図2 中国・四国地方の震央分布図
 データ期間：1923年1月1日～2012年10月31日。
 N=981：震源決定された地震の数。
 地震の深さ：全て、M(マグニチュード)：4.0以上・

領域c内のM-T図

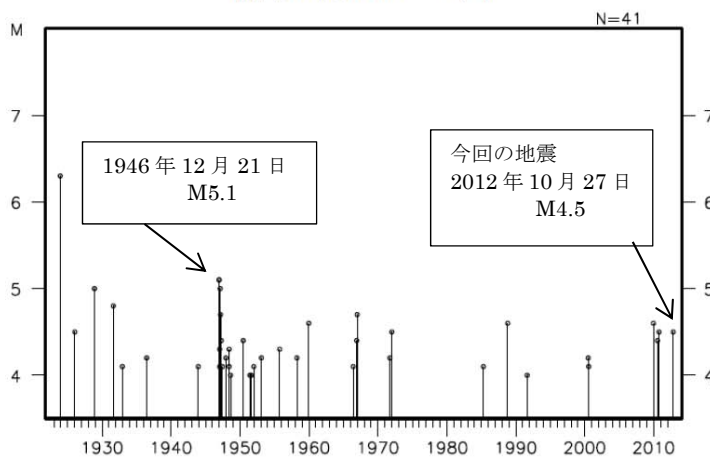


図3 M(縦軸)と地震の発生時期(横軸)との関係。
 左図C内(四角に囲まれた領域)で発生したM4.5以上の地震の数。
 N=41：C領域内のM4.5以上の地震の数。